

水辺のふるさと かつしか 冬号

2023.9-11

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：フウセントウワタ

撮影場所：お花茶屋

写真提供：R

目次

- 1 55種の動植物調査結果 P 2～5
- 2 自由レポート P 6～29
- 3 季節の写真集 P 30～36
- 4 魚からの便り P 37～40
- 5 環境課からのお知らせ P 41
































































































































こんにちは。環境課自然環境係の大野と申します。

今号から「55種の動植物調査結果」のデザインを変更しました。55種の動植物を写真とともに掲載することで、名前と姿が一致させやすいほか、発見された個体とそうでないものの区別、個体ごとの発見された場所を識別しやすくいたしました。アンケートにご協力くださいました自然環境レポーターの皆さま、誠にありがとうございました。





















この頃は寒さの増す季節となりましたが、一方で20℃近くなる日もあり、例年より暖かめの冬に服装選びが難しくて仕方ありません。イチヨウやモミジバフウなどの紅葉が遅めに感じたのも、気温の影響が少なからずあるのでしょうか。今年の冬は身近な自然環境を注視してみると、新しい気付きがあるかもしれませんね。









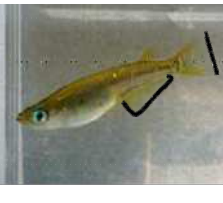






環境課自然環境係大野

調査区 1  調査区 2  調査区 3  調査区 4  調査区 5 

<p>コアジサシ</p>  <p>    </p>	<p>ウグイス</p>  <p>    </p>	<p>ギンヤンマ</p>  <p>    </p>	<p>トノサマバッタ</p>  <p>    </p>
<p>ツバメ</p>  <p>    </p>	<p>コサギ</p>  <p>    </p>	<p>アキアカネ</p>  <p>    </p>	<p>クマゼミ</p>  <p>    </p>
<p>オオヨシキリ</p>  <p>    </p>	<p>カワセミ</p>  <p>    </p>	<p>オオカマキリ</p>  <p>    </p>	<p>アブラゼミ</p>  <p>    </p>
<p>コガモ</p>  <p>    </p>	<p>コゲラ</p>  <p>    </p>	<p>エンマコオロギ</p>  <p>    </p>	<p>ツクツクボウシ</p>  <p>    </p>
<p>ツグミ</p>  <p>    </p>	<p>シジュウカラ</p>  <p>    </p>	<p>カンタン</p>  <p>    </p>	<p>ミンミンゼミ</p>  <p>    </p>

調査区 1 ● 調査区 2 ● 調査区 3 ● 調査区 4 ● 調査区 5 ●

<p>ニイニイゼミ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>テングチョウ</p>  <p>○ ○ ● ○ ○ ○</p>	<p>ナガミヒナゲシ</p>  <p>○ ● ● ○ ○ ○</p>	<p>セリ</p>  <p>○ ● ● ○ ○ ○</p>
<p>ヤマトタマムシ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ツマグロヒョウモン</p> <p>←雄</p>  <p>雌→</p> <p>● ○ ● ● ●</p>	<p>シロツメクサ</p>  <p>○ ● ● ● ●</p>	<p>オオバコ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ●</p>
<p>ナガサキアゲハ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>アカボシゴマダラ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ●</p>	<p>スズメノエンドウ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>オオキンケイギク</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>クロアゲハ</p> <p>←表</p>  <p>裏→</p> <p>○ ○ ● ● ●</p>	<p>アカメガシワ</p>  <p>● ○ ● ○ ●</p>	<p>イモカタバミ</p>  <p>○ ● ● ○ ●</p>	<p>カントウヨメナ</p>  <p>○ ● ○ ○ ●</p>
<p>ナミアゲハ</p>  <p>● ○ ● ● ●</p>	<p>スギナ</p> <p>ツクシ ↓</p>  <p>○ ● ● ○ ●</p>	<p>アレチウリ</p> <p>果実 ↓</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>カントウタンポポ</p> <p>反り返らない→</p>  <p>○ ● ● ○ ○ ○</p>

<p>ツユクサ</p>  <p>○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ○ ●</p>	<p>ミシシippアカミミガメ</p>  <p>○ ○ ○ ● ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>コガネグモ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ○ ○ ○ ●</p>
<p>ジュズダマ</p>  <p>○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ○ ●</p>	<p>ニホンカナヘビ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ジョロウグモ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ススキ</p>  <p>○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ○ ●</p>	<p>ニホンアマガエル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>メダカ</p>  <p>← カダヤシ 類似注意 メダカの特徴</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>アライグマ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ニホンアカガエル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ブルーギル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>
<p>ハクビシン</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ウシガエル</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>	<p>ベンケイガニ</p>  <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p>

秋の訪れ

弥生さくら草

異常に暑かったこの夏、それでもいつしかその記憶が薄れた。今は素敵な秋の訪れに感激している。それでも枯れた草花の様子から被害が偲ばれる。彼らも受難だったのだ……。秋の七草の代表格のほととぎすやふじほかまは下草が殆ど枯れたがそれでも優雅な姿でどうにか咲いた。ほととぎすに似た可憐な姿の渋い色合いの花を見ると日本の秋の味わいを感じる。

先日庭先で佇んでいた時、未だに見たことも無い変わった蜂で異様だった。普通の蜂の三倍はあるだろう。黒と黄色の縞模様で不気味だった。家に入りテレビをつけたら、その時偶然映ったのがスズメバチだった。聴いてはいたけれど、これがそうなのか？身震いがした。これに刺されると、命も危ういという。真夏は彼らも活動期だから……。

近くで狸に似たはくびしんも出没するというから恐ろしい。

令和5年11月1日



▲ふじばかま

▶ほととぎす



氏名	散歩の花子	町名	西新小岩／東新小岩	調査区	1-4／1-3
----	-------	----	-----------	-----	---------



アマクリナム／(ヒガンバナ科)
／11月下旬

土手の植え込みに1本だけピンクに目立って咲いていました。
アマリリスとクリナムの交配種ということですが
どうしてここに・・・？

オオスカシバ(蛾)／(スズメガ科)
／10月初旬



コスモスが繁茂する中を<オオスカシバ>が
せわしなくアッチコッチと飛び回ります。
翅が透明な蛾なので、上から写真に撮っても
翅が写らない姿です。
かろうじて、蜜を吸っているところも撮れました。



タマスダレ／(ヒガンバナ科)
／9月中旬

酷暑を乗り越え、ベランダの植木鉢には
隙間のないほどのタマスダレが咲きました。
同じ頃、外の道路わきでも、白い花が
一斉に咲きそろい、10月中旬頃まで
元気をくれました。

ヒヨドリ生態系

鳴き声 ヒーヨヒーヨ ピーピピピなど

大きさ 27.5cm 位

渡り鳥 10月～11月 暖かい地方へ移る

特徴 黒いくちばし・細くて長い・頭に冠羽・群れで動く

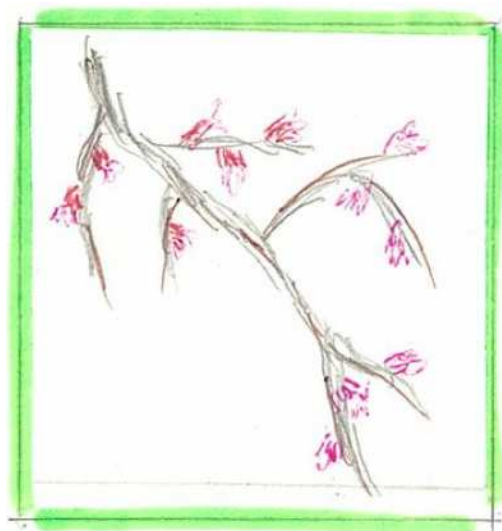
考察

- 9月～10月は朝・夕と決まった時間と場所で鳴き始めます。
リーダーらしき1羽が先ずヒーヨヒーヨと鳴くと、遠くにいる個体もピーピーと返事をしている様でした。
リーダーの周りに集まり違う場所に向かう様でした。
- 11月に入ると群の数が少しずつ減っていき、朝・夕と集まる場所が変わりました。
時間も場所も陽が射す所が変わり、合わせている様です。
止まっている木も、木の実が付き始めた木に移動している様でした。
- 11月29日には、四つ木橋の上を正午過ぎに大きな群れで移動していくのを見ました。
そろそろ葛飾区では見掛け無くなるのでしょうか。



- 羽の色はグレーからブルーなど
ほほの所は茶色
お腹の所は白い
斑がある

- 小さい花や
木の実を好む
高い木の所で
食べている



田上真喜子 立石 調査区 2

毎年ゴーヤやヘチマを育てて緑のカーテンを作っています。

今年の夏は連日猛暑が続きましたが、台所の出窓がゴーヤ、キュウリ、ヘチマの葉で覆われました。ヘチマの葉は大きくて有難い。

今年は特に陽射しが強かったので、シンクの前に立っている時涼しく助かりました。

2階の軒下まで外壁をつたわってツルが伸び、生命力の強さを感じます。

ゴーヤは夏の間、他の果物や牛乳と一緒にスムージーにして、ビタミン C のめぐみを沢山いただきました。

ヘチマも 9 月に入ると次次に成り(蒔いた種子は深めの植木鉢 2 つなので)、ささやかですが 6 本収穫出来ました。

大きいのは 50 センチになりました。

今は大分乾燥して茶色くなり、振ると中で種子がカラカラと音がします。

毎年の事ながら、これから種子を取り出して残りの実を水桶に入れて、ヘチマタワシを作ります。

食器洗い、シンク磨き、浴槽洗いに便利に使えます。植物なので使った後捨てる時も土に還るのでいいですね。

暮らしの中で出来る小さな SDGS ですが、1 年を通して楽しめてお得です。





「水辺のふるさと」の実りの秋、小学生と一緒に田んぼの自然に親しむ

広瀬 温 (調査区2)

実りの秋を迎え、郷土と天文の博物館「米づくり体験教室」でも9月17日に稲刈りを終えた。暑い日が続く中、収穫後の田んぼではモツゴの群れがゆうゆうと泳ぎ、トンボや蝶が舞っている。



10月7日 米の取り込み～片づけ、田んぼの生きもの観察

稲刈りから3週間、ハザで天日干しされた稲を取り込み、カビが生えないよう新聞紙にくるんで収蔵庫に保管する。

稲が刈り取られた田んぼで生きものを観察。素速い動きのモツゴを追いかけて、泥の中に潜むドジョウを追いついて捕まえる。隠れ場所がなくなったアメリカザリガニは手づかみにされ、あっという間にバケツいっぱいになる。他にもグッピー、スジエビ、タイワンシジミ、タニシなど、種ごとにケースに入れてじっくり観察する。

淡水魚類研究者の君塚芳輝さんから「田んぼと生きもの」について講義を受ける。生きものがすみやすい田んぼには、①田と水路の高さの差が小さく、水田が

水路で川とつながっていて生きものが行き来できる ②水路に水が一年中あり、魚が冬を過ごせる といった特徴がある。田んぼは「米の工場」ではない。魚がすんでる田んぼの米は安全で美味しい。日野市や小田原市、つくばみらい市など日本各地で、米の付加価値を上げるため、生きものがすめる田んぼへの取り組みが進んでいるという。見習いたいところだが・・・葛飾には田んぼがない。



10月14日 花の木小「田んぼサポーター」出前授業

金町駅近くの花の木小では校内に田んぼが整備され、コシヒカリが育てられている。5月の代掻き、田植えから始まり、9月に稲刈りが行われた。

10月14日、「田んぼサポーター」8名が花の木小に赴き、「千歯こき」を使った脱穀、木臼を用いた粳摺りの出前授業が行われた。体育館に5年生3クラスが集まり、小峰園子学芸員から説明を受けた後、束ねた稲を千歯こきに打ちつけていく。力まかせではうまくいかず、コツがあるようだ。繰り返し並んで、2回3回と挑戦。学校公開で父兄の見学も多い。親の世代も実際に脱穀をしたことがなく、子どもたちの実演に興味深く見守っている。体験から学べるものは大きい。





11月3日 「博物館まつり」脱穀・粃摺り体験

秋晴れの下、金魚ではなくモツゴの「金魚すくい」に子どもたちが集まる。残念ながら、葛飾で獲ったものではなく手賀沼産だという。

博物館の前で米の脱穀～粃摺り体験が始まった。「足踏み回転脱穀機」は「千歯こき」に比べると格段に効率がいい。「唐箕」はハンドルで風を送って粃殻を飛ばし、重い米を選び分けるシンプルな仕組みだ。昭和まで使われていた農器具は、博物館でよく見かけるが、実際に動いているのを見るのは初めて。子どもたちにまじって体験したいところだ。

改良を重ねて使われていたが、今はコンバインで稲刈り～脱穀を一気に行うので、現役を引退し、納屋にしまわれているという。稲わらを差し込むと縄がなわれる足踏みの機械もある。稲は本当に捨てる場所がない。限られた土地で工夫を重ねて収穫を上げる「米づくり」には、日本の知恵が詰まっている。



11月19日 大豆の収穫、今年の米づくりのふりかえり

6月17日にポットに種をまいて家庭で育て、発芽した苗を7月1日に田んぼの畔に植え替えた大豆も収穫時期を迎えた。

大豆は畦道によく植えられている。しっかり張った根が畦道を補強すると、マメ科の根に共生する根粒菌が大気中の窒素を固定し、植物の成長に役立つ。大豆は田んぼから水分を補給し、固定された窒素が田んぼに養分をもたらすという。

たわわに実った株を子どもたちが抱えて運ぶ。元々は1粒の豆から、たくさん大豆が実る。根を観察するとこぶがたくさんある。50年前に教科書で習った「窒素固定」の仕組みを思い出す。最新研究により、生態系を支える植物の仕組みが解き明かされていくが、基本を目にし、改めて植物の偉大さを感じる。秋の晩は植物の偉大さに感謝しながら枝豆をつまみ、ビールで乾杯。自然豊かな田んぼは美味しい。



12月には餅つき、鏡餅をつくり、タロベエモチの稲わらを用いて正月飾りに挑戦する。米づくりをベースに「水辺のふるさと」の一年が循環していく。春には、2024年の米づくりが始まる。



野鳥好き中学生による葛飾区 naturally 観察日記！

作成者：千葉美文 住所：白鳥 調査区域：2, 3, 5



9月21日

青戸平和公園にてモズが渡来。
シジュウカラが何羽も集まって鳴いていることに気づき、シジュウカラたちの視線の先を見るとそこにはモズの姿が、毎年この秋になるとモズが公園にやってくるのだ。近所でたまに見かけるモズ、葛飾区内で水元公園以外でも繁殖を行っていると思うのだが、繁殖はいったいどこで行っているのだろうか。

10月23日

青戸平和公園にてツミが渡来。
元々この公園にいた個体かはわからないが、その可能性が高い。しかし、シンフォニーヒルズの近くでツミのオスの死体が見つかったとの情報を耳にしたので別の個体の可能性もある。来年は繁殖してくれるだろうか。



10月30日

青戸平和公園にてシメが渡来。
普段は聞かない鳥の鳴き声でしたので探してみるとその正体はシメだった。越冬のため都市に降りてきたのであろう。

10月31日

青戸平和公園にツミのメスが渡来。

オスが渡来したのは確認済みだったが、メスが今期に渡来したのは私の観察ではこれが初めての記録となる。



11月18日

水元公園にてミゾゴイが渡来。

なんと2回目の渡来である。前回は昨年(2022年)の9月だったが今回は11月だ。国指定の絶滅危惧種である。夏鳥なので渡りの途中に立ち寄った個体だろう。数年前に新宿駅の駅前に現れ、少し話題になった鳥だ。春にまた水元公園にやってきて繁殖してほしいものだ。このほかにもアカゲラがたくさんいた。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2023年10月29日

水元公園の向こう

最近、水元公園の対岸の松戸市側に行くことがあって、通りがかりに少し生き物を見ると、少し面白い違いがあったので、報告します。

レポーターの更新の際などに、ご講義いただく田中利勝先生がおっしゃっていらっしゃった事で、あまりよく思われる事のないクモの仲間は、生物相が豊かでないといなくて、クモがいたら、そこは生物相が豊かであると思ってよいとの事でした。

松戸市側に行くとクモの数が葛飾区の、それも水元公園と比べても、何倍もいるのでビックリしました。

原因は分かりません。

松戸市は高台になっていて、小さな山が点在し、急傾斜地で開発がしづらいところが、あちこち神社として保護されて小さな森になっていて、そこに生き物がいるようです。

神社やその近くの茂みには、結構ヤモリがいて、カナヘビより多く見かけます。

カナヘビより先に、トカゲを見ました。

水元公園の対岸では、イトトンボの仲間と、ハグロトンボを見ました。

葛飾区と隣接していますが、結構違いがあるようです。

氏名：石鍋 壽一

町名：小菅

調査区：3

2023年11月19日

ヒヨドリジョウゴ



ヒヨドリジョウゴ

区内北西部 令和5年11月19日

ヒヨドリジョウゴです。ヒヨドリがよく食べることからヒヨドリジョウゴという名前がついたそうです。

近所で元々生えていたものは、状況から考えると途絶えたと思われるが、近隣で鳥が食べてフンをすることで、種が広がったのではないかと考えられます。

人間も自分たちが食べる植物の種を、盲腸炎にならないように気を付けながらウンコで広げたらと思います。

氏名：となり 調査区4 2023年9月～11月

《《 鎌倉町の自宅の庭 》》 基本的に自宅の庭だけを観察対象としています。



2023年9月3日 11:58

カナヘビ (大)



2023年9月16日 14:58

カナヘビ

生まれたばかりだと思います。



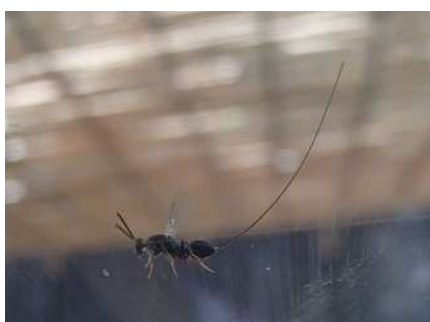
2023年9月24日 16:09

カナヘビ



2023年9月9日 13:52

カナヘビ (大)



2023年9月17日 15:15

オナガバチの仲間?

ヒメバチの仲間?



2023年10月13日 10:04

アキアカネ?



2023年9月9日 16:07

滅多に枯れないベルガモットが枯れたので根を見たら白いカビのようなものが生えていた。その他、アジュガとアゲラタムも同様だった。白絹病かも。



2023年9月24日 14:29

カナヘビ (大)



2023年10月14日 14:13

カナヘビ



2023年9月11日 1:07

最近の梅雨は雨が全然降らない印象。今年は特に少なかったように感じる。
台風は1回しか来なかったし。



2023年10月15日 15:35

ジョロウグモの幼体?



2023年10月20日 11:17
ウラギンシジミ



2023年10月21日 15:11
ネコハエトリ?



2023年11月7日 13:02
イナゴの仲間



2023年9月24日 14:33
前伸腹節に黄色の模様がないのでセグロアシナガバチだと思います。(参考資料: 狩蜂生態図鑑)
おそらく、クチナシにいるオオスカシバの幼虫を探しに来たのだと思います。



2023年9月24日 14:44
ウラナミシジミ、萩にやって来た



2023年9月30日 16:29
ウラナミシジミ (幼虫)



2023年10月27日 13:50
シソの根元にアリの巣があった。サラサラした土が盛ってありました。シソにはアブラムシがたくさんついていました。



2023年9月30日 16:31
ウラナミシジミ (幼虫)

ウラナミシジミの幼虫が萩に複数いた。緑色の個体もいた。
シジミチョウの幼虫はアリと相利共生の関係にあると思っていたのですが、違うらしい。幼虫が出す蜜によってアリは操作されているという研究結果がありました。

自宅の庭には、白い花が咲くシソと紫の花が咲くシソがあります。ミツバチは白いシソが好きなので、紫にはほとんど来ませんでした。ミツバチ以外の昆虫が白と紫のどちらによく来ているかまでは、よく見ていなかったのではありません。
今年にはナメクジがいなかった。1匹も見えていない気がする。ミツバチは1回しか見つけられなかった。そういえば、キセルガイとツマグロオオヨコバイ (通称: バナナ虫) もここ数年間見ていない。

葛飾区自然環境レポーター 自由レポート (2023年9~11月)

氏名：江戸川の小鮒	調査区：主に 5-24、5-26、4-23	町名：東金町
-----------	-----------------------	--------

10月20日(金) 東金町6丁目 江戸川堤防

朝、江戸川堤防上からヒバリの囀りが聞こえてきた。ヒバリの囀りは春先から6月頃にかけてまでと思っていたので何かの間違いではないかと耳を疑ったが、やはりそれはヒバリの囀りだった。通常秋の時期にヒバリは囀るものなののでしょうか。ネットで調べましたが、「春告げ鳥」として2月以降に囀り始めるとあり、やはり一体何故10月に囀ったのかは不明です。その後、ヒバリの囀りは確認できず。ちなみにこの日の最高気温は27.1度と夏日。暖かい日が続いていることが影響したのでしょうか。レポーターの皆さんの中で同様の事例がありましたら、ぜひ教えていただけましたら幸いです。それにしても久しぶりにヒバリの囀りを聞くことができ、何とも幸せな気持ちにさせてもらいました。

10月29日(日) 水元公園小合溜

この日の水元公園は、穏やかな秋空の下、公園内の樹々も黄葉が少しずつ進み、気が付けば小合溜の水面にはホシハジロ・ヒドリガモなど北から渡ってきた水鳥が数多く飛来していた(写真①②③)。

小合溜周辺の散策路を歩く人々も足を止め、水面の水鳥を眺めている方が少なくなかった。



写真① 小合溜の水鳥



写真② 小合溜の水鳥



写真③ 小合溜の水鳥

11月23日（祝） 水元公園

バードサンクチュアリ周辺の散策路を歩いていると、望遠レンズを着けたカメラマンが何やら珍しい野鳥がいるのか高木に向けてカメラを向けていた。何がいるのか尋ねたら、「サンショウクイ」とのこと。よく見ると割と頻りに枝から枝へ2羽のサンショウクイが移動している姿が確認できた。その場ですぐにネットで検索すると、サンショウクイは夏鳥で、冬は東南アジアに渡るとのこと。暖冬のせいで東南アジアへの移動が遅れたのだろうか。もう11月も下旬だが…。思いもかけない鳥に出会えたことは良かったが、これも温暖化と何らかの関係があるとする心配だ。



写真④ 水元公園内の黄葉

自然観察レポート 調査区5

R5/9月～11月の巻 佐々木 定治

暑さの秋でも季節の営みは確実に



9/12 畑にいる昆虫のお話会



水元3丁目 9/19 ヒガンバナ



10/6 アキアカネ



水元3丁目 10/17 マリーゴールドとヒメアカタテハ



10/17 ウグイス 水元3丁目

今、目の前にあるこの自然の営みは、一生に一度、これまで見たことのあるようには記憶するものの、この季節にあるこの景色は、一期一会の現象です。

しかし今年の秋の暑いことといえばこれまでに経験のないほどの暑さであり、正に「地球沸騰」という例え通りの異常気象であったと感じています。

畑では昆虫を呼ぶために、園児と昆虫談義をしてみました。まるで暑さを一手に引き受けるかのように、ヒガンバナの赤さが燃えるように咲き、アキアカネやヒメアカタテハも

疲れ切っているかのように見えます。10月17日の朝、ウグイス（写真では黒っぽいですが現物は少し緑色）がなぜか召されているのを発見しました。生あるもの皆いつかは命が尽きるのですが、自然界はこうして生々流転しているのです。この地球が減びることなく新しい命が繰り返し生まれ、未来永劫に続くことを願います。

環境異変が昆虫の世界にも



10/13 ススキ

水元3丁目



セスジスズメガの幼虫



10/31 ヤゴ

水元3丁目



11/1 エビガラスズメガの幼虫

気象庁は12月1日、秋、(9月～11月)の平均気温が、平年値(平成3～令和2年の平均)を1.39度上回り、明治31年の統計開始から最も高くなったと発表した。今年は春(3～5月)と夏(6～8月)も過去最高を記録し、初めての3季連続の更新となった。1月～11月の平均気温もプラス1.34度と過去最高を大きく上回っており、気象庁は年間でも最も高くなることがほぼ確実としている。……<産経新聞12月2日号引用>

ホウセンカは夏の花で、その夏に結実し、破裂して飛び出た種が次の年に発芽し再度新しい命を見せてくれるいわば一年草なのですが、今年は、10月に再び満開に花をつけ、幾分たよりのない結実現象を見せてくれました。このホウセンカを、セスジスズメガの幼虫が遅しく食べ命をつないでいました。またアサガオも10月の終わりまで咲き、11月に種子をつけた茎に、エビガラスズメガの幼虫がぴったりと食いついていました。田んぼのヤゴの生育もびっくりするほどの大きさになっていました。

ある場面を切り取っていえば、本来その季節にはこれまでなかったはずの「気温」が続くということは自然界に住む生き物の命にながしかの好影響を与えているかのように見えるが、私は決してそうは思いません。

そんな異常気象の中の11月30日から、ドバイで開催されているCOP28に岸田首相、とりわけ葛飾区長と環境課代表者の出席は意義が大きいと期待をしています。この異常としか言えない気候変動を今、食い止めなければ人間の暮らしは、人間がなせる業のために益々増大の一途をたどる変動になってしまいます。私は微力ながら、たった一つの地球が子々孫々に渡って続くことを願ってこれからも自然環境レポートをしていきます。

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和5年 9月・10月・11月)				

種類	9月	10月	11月	種類	9月	10月	11月
セイヨウタンポポ	0	0	3	アゲハチョウ	3	2	0
ツククサ	多数	多数	0	モンシロチョウ	5	1	1
シロツメクサ	多数	5	8	アオサギ	1	2	1
シジミチョウ	10	多数	8	コサギ	0	1	1
クロアゲハチョウ	2	2	0	カモ類	10	20	多数
				ユリカモメ	0	0	不明

昆虫情報

- ・モンシロチョウはほぼ黄色だった。クロアゲハチョウは30℃以上で舞うというが、10月にも見られた。
- ・11月自宅の庭で「水辺のふるさとかつしか」秋号4ページ掲載のカマキリがいた。

植物情報

- ・セイヨウタンポポが7月～10月の4ヶ月0は初めての経験。昨年、数は少ないが一応開花。11月は3個（昨年は8個）
- ・ツククサは10月まで多数。（水辺のふれあいルームでは9月）
雨の降り方にむらがあり、知人は家庭菜園が不作だと嘆いている。

さくらの切り株について

世田谷に住む友人と公園を散策していたら、
「この土手ってさくらの切り株が多いわね、どうして」
その質問に答えるべく観察地の切り株を調べてみた。

正面入り口～第二駐車場の

株の数は、車道側21本・公園側2本（枯れ木2本）合計23本

健在なさくらは車道側25本・公園側43本 合計68本

「約30%が株になっているらしい。健在な株の中にも若木が15本もあり



「花見の大切な場所だけにびっくりしてしまった」
 第二駐車場～東金町側の出口の間は、56本のさくらがあった。株と枯れ木は
 わずか4本だけだった。
 両者の違いは何なのか？根元への土の面積の大小
 土手の中にあじさいが無いなどだろうか。



・観察地のお地蔵さんの近くにコキアが多数植えられていた。



大谷 悦子	町名：南水元	調査区：5-28
-------	--------	----------

【9月の蝶、幼虫】

柚子のような葉にナミアゲハの幼虫がいました。小さいもの、大きいものいろいろいましたが、写真は4令と終令です。

成虫も飛んでいたのですが、残念ながら、撮り損ねました。(9月9日撮影)



そのほか、水元公園の水辺の里で見かけた蝶です。

左から、ヤマトシジミ、ベニシジミ、アカボシゴマダラ（特定外来生物）、オオウンモンクチバ（蛾）です。

(9月17日撮影)



他にも、コムスジ、ジャコウアゲハ、ルリタテハ、ツマグロヒョウモンなども見ましたが、撮れませんでした。

大谷 悦子	町名：南水元	調査区：5-28
-------	--------	----------

【10月の実】

夏の暑さで植物はいろいろと異変があるようです。テイカカズラやタニウツギ、サクラなどの狂い咲き、紅葉を待たずに枯れ落ちてしまった葉、等々。そんな中で、10月は秋を探して、実の写真を集めてみました。



アキニレ 10/4
5-26 (水元公園)



イヌシデ 10/4
5-26 (水元公園)



サルスベリ 10/21
5-28 (南水元)



アスパラガス 10/12
5-28 (南水元)



ひょうたん 10/14
5-26 (水元公園)



ハゼ 10/16
5-26 (水元公園)



マテバシイ 10/16
5-26 (水元公園)



ラクウショウ 10/16
5-28



イヌマキ 10/18
5-27 (南蔵院)



ハンノキ 10/21
5-26 (水元公園)



モチノキ 10/21
5-28 (南水元)



シャリンバイ 10/21
5-28 (南水元)

【11月オオモクゲンジ】

ちょっと変わった実のなるオオモクゲンジが水元公園（5-26）の彼岸花の群落の近くにあります。9月から11月にかけて、花から実になる様子を観察しました。



9/6 咲き始め



9/6 下に落ちた花（マクロレンズ）



9/17 満開です。花の中心が赤くなりました。



9/17 下に落ちた花（マクロレンズ）



9/24 若い実になっていました。



9/24 実が大きくなっていました。



9/24 実の一つです。



9/24 落ちた実です。中に青い実ができていました。



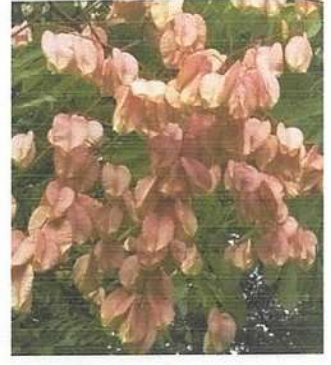
10/16 実の先が少し開いています。



10/16 落ちた実。中の実が丸く大きくなりました。



10/21 実がさらに開いていました。



10/25 大きさはあまり変わらないようです。



10/25 落ちた実。中の実が黒くなっていました。



11/7 大分実が落ち、葉が黄色くなってきました。



11/10 大風で下に落ちた実。



11/27 実が殆ど落ちた枝もありました。



10/21 までの中の実緑、10/25からは黒くなりました。10/30くらいから、カサカサ乾いてきました。



中の実を切ってみました。

季節の写真集 (9~11月)



「えっこんな所に…」

スズメガ

慶蔵 9/23

亀有4丁目アパート2号棟

6階のエレベーターの前

「庭の大葉を
喰い尽くす夫婦」
ゆきひめ 9/23
水元



「亀有香取神社で
お参りしている蝶」

ナミアゲハ

慶蔵 10/12

亀有香取神社



季節の写真集 (9~11月)



アカボシゴマダラ

Ryu 9/28

お花茶屋



「うまれたての
アカボシゴマダラ」

Ryu 10/11

お花茶屋



紅葉 Ryu

11/19 小菅

季節の写真集 (9~11月)



フウセントウワタ

R 9/26

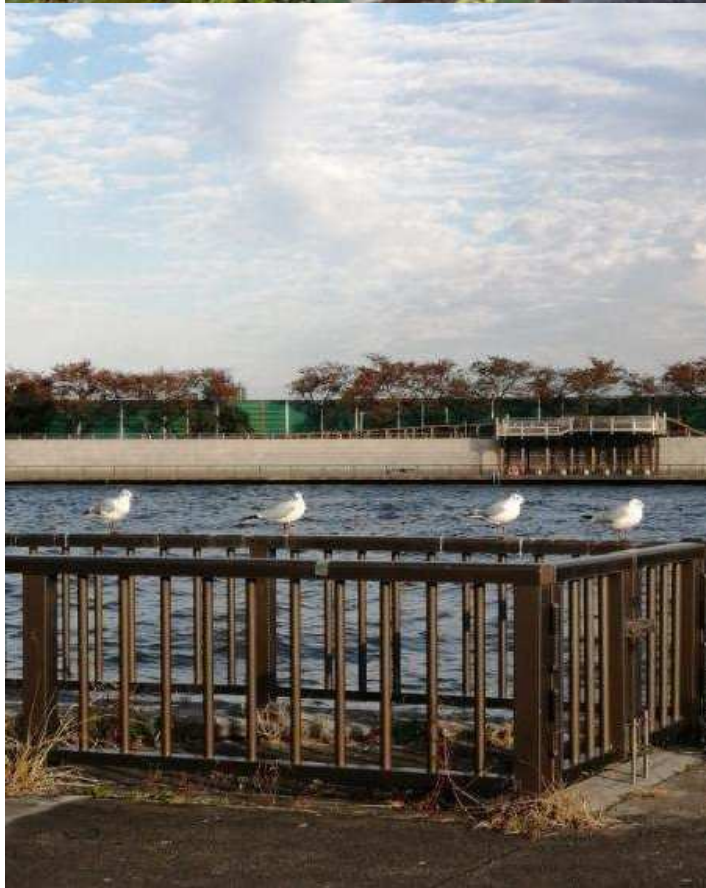
お花茶屋



「死にたての
アオスジアゲハ」

R 10/12

お花茶屋



ゆりかもめ

R 11/23

東立石

季節の写真集 (9~11月)



シオカラトンボ♂
瑛ちゃん 9/3
金町



シオカラトンボ♀
瑛ちゃん 9/3
金町



「ルンルン♪」
チュウサギ
瑛ちゃん 10/3
水元公園

季節の写真集 (9~11月)



「捕食」
アオメアブ
下山田隆 9/17
水産試験場

「連結」
アジアイトトンボ
下山田隆 10/1
水元公園



シロオビノメイガ
下山田隆 11/4
水産試験場

季節の写真集 (9~11月)



「新中川河畔の
ゆりかもめ」
ゆりかもめ
高橋雅子 11月
新中川河畔

ヒガンバナ
佐々木定治 9/19
水元2丁目



オオバン
石鍋 壽一 11/19
区北西部

季節の写真集 (9~11月)



ツユクサとミツバチ
有泉桂子 9/13
堀切7丁目青葉公園



「一枚の中で
いろとりどり」
有泉桂子 11/11
堀切7丁目
あやめ幼稚園沿道



赤トンボ
有泉桂子 11/13
お花茶屋3丁目路面

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-314

調査次数 調査日 地点		316			備 考
		2023/9/10			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	オ イ カ ワ	26 24-135			
2	オ オ ク チ バ ス	3 165-179			特定外来生物
3	カ ダ ヤ シ		124 11-38		特定外来生物
4	カ マ ツ カ	1 64			
5	コ ク チ バ ス	4 137-147			特定外来生物
6	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 57			
7	シ モ フ リ シ マ ハ ゼ	1 39			
8	ス ズ キ	1 175			
9	タイリクバラタナゴ		1 28		
10	ツ チ フ キ	3 68-93			
11	ド ジ ヨ ウ		4 28-32		
12	ニ ゴ イ	3 18-120			
13	ヌ マ チ チ ブ	24 21-62			
14	ハ ス	11 66-99			
15	ブ ル ー ギ ル	2 43-57			特定外来生物
16	ボ ラ	6 120-166			
17	マ ハ ゼ	85 60-124	2 121-123		
18	マ ル タ	2 19-94			
19	メ ダ カ		2 23-26		
20	ヨ シ ノ ボ リ 属	6 18-28			
21	ワ タ カ	1 182			
計		17種類180個体	5種類133個体	0種類0個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲 (単位: mm)
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて21種類313個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温33.0℃、水温 本流27.1℃、新八水路27.5℃、(14:40頃測定)
「参考」江戸川の水位 (観測所: 千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側)
(10:00)0.66m (12:00)0.92m (14:00)1.38m

【参加者コメント】

- ・ 沖で、大きなボラが日がなはねている様な、いい陽気の一日でした。旧柴又水路前に生えていた水草が、新八出口あたりにも定着してきたようです。最近、本流でブルーギル未成魚が続けて取れている気がするのですが、この定着はしてほしくないものです。(KI)
- ・ 珍しい「ワタカ」が捕獲されました。大雨も悪いことだけではないですね。(MT)
- ・ 台風後であったが、水位が低く投網が投げやすかった。国内移入種ではあるが、ワタカが捕獲できたのは嬉しかった。10センチ程度のバスを何匹か捕獲したので江戸川で増えているか心配である。(AT)
- ・ ワンドは、広範囲にアシが生えていて採取できる水面が狭かった上に、水位がほとんど無く、全くお手上げだった。(SI)

【今後の調査日】 10月29日(日) 11月12日(日) 12月10日(日)

2024年1月27日(土) 2月11日(日) 3月10日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集: 一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-315

調査回数 調査日 地点	317			備 考	
	2023/10/29				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	1 29			
2	オ イ カ ワ	11 70-138			
3	カ ダ ヤ シ		4 20-38	23 11-36	特定外来生物
4	カ マ ツ カ	4 92-117			
5	カ ム ル チ ー		1 165		
6	ク ロ ダ ハ ゼ	1 22			
7	タイリクバラタナゴ		3 18-28		
8	デ メ モ ロ コ	2 59-66			
9	ド ジ ヨ ウ		1 94		
10	ニ ゴ イ	1 56			
11	ヌ マ チ チ ブ	8 26-49			
12	ハ ス	3 90-108			
13	ボ ラ	14 140-230			
14	マ ハ ゼ	19 74-136			
15	メ ダ カ		1 25		
計		10種類64個体	5種類10個体	1種類23個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて15種類97個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り時々晴れ、気温20.8℃、水温 本流19.2℃、新八水路17.0℃、新八ワンド18.2℃（14:30頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉縣市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
 (10:00)1.72m (12:00)1.76m (14:00)1.80m

【参加者コメント】

- ・ 新八入り口や、川に入るあたりに、ホテイアオイが何株も漂着していました。定着されると困ります。どこかに供給源があるのでしょうか。（KI）
- ・ 水位が高く大変でしたが、オイカワのオレンジ色の綺麗なヒレを堪能しました。（MO）
- ・ 家を出るときは、午前中雨が続くかもしれないと思っていたが、調査前には雨は止み、それ以後降らなかったのが、嬉しい誤算だった。（SI）

【今後の調査日】 11月12日（日） 12月10日（日）

2024年1月27日（土） 2月11日（日） 3月10日（日）

HP（<http://shigenori1.jimdo.com/>）新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-316

調査回数 調査日 地点		318			備 考
		2023/11/12			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	1 28			
2	オ イ カ ワ	7 74-128			
3	カ ダ ヤ シ		91 11-38	53 9-35	特定外来生物
4	カ マ ツ カ	3 84-97			
5	ク ロ ダ ハ ゼ	1 30			
6	ヌ マ チ チ ブ	6 29-74			
7	ハ	4 114-126			
8	ボ	11 60-204			
9	マ ハ ゼ	3 100-119			
10	マ ル タ	1 116			
計		9種類37個体	1種類91個体	1種類53個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて10種類181個体の魚類が採集されました。
- ・ 雨のち曇り、気温10.4℃、水温 本流15.6℃、新八水路11.6℃、新八ワンド13.3℃（14:30頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
 (10:00)1.70m (12:00)1.71m (14:00)1.72m

【参加者コメント】

- ・ 投網の中に落ち葉がたくさん入り、季節を感じました。水際の植物が白く汚れているところがあり、その上には小枝や葉のない太い木の枝がありました。水鳥が止まり木にしているようです。（KI）
- ・ 江戸川産のオイカワは多摩川に比べて口裂が大きいと予てから感じている。産卵後の痩せたオイカワだと一瞬ハスと見間違そうになる。オイカワは多摩川が太平洋側の東限とされるので、移入元になった西日本の水系による変異が残されているのかもしれない。（YK）
- ・ 水路とワンド、どちらもカダヤシしか採れず。メダカが採れなかったのは、居なかったのか、採り方が下手なのか、どちらにしる残念。11月にしては寒い1日だったが、気温、水温を測って驚いた。気温が江戸川の水温より5度も低かった。（SI）

【今後の調査日】 12月10日（日）

2024年1月27日（土） 2月11日（日） 3月10日（日）

HP（<http://shigenori1.jimdo.com/>）新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

環境課からのお知らせ

★自然環境レポーター研修会を開催しました！★

令和5年12月10日(日)、「冬の水鳥などを見てみよう」をテーマに、都立葛西臨海公園・都立葛西海浜公園にて自然観察会を開催しました。

田中先生の講義は道中も行われ、植物や鳥類のみならず、生きものの住める環境づくりや植生の仕組みなど、多岐にわたる解説を受けながら観察しました。

中でも、休める場所・食料のある場所・繁殖できる場所の3か所があれば渡り鳥などに住み良い環境になること、寄せ植えによって森づくりを早められることの話が印象に残っています。

暖かく穏やかな天候で良い1日でしたね。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

今後も研修会を開催していく予定ですので、レポーター同士の交流やレベルアップのためにも、皆さまのご参加をお待ちしております。



★新ハ水路で魚類調査を行います★

日時 1月27日(土) 2月11日(日) 3月10日(日)
午前10時～午後4時ごろ

場所 江戸川河川敷 ※事前連絡をお願いします。

持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス
詳しくは、HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>) をご覧ください。



冬号にご協力いただいたみなさま

Rさん、アナログバーバさん、有泉桂子さん、石戸雅彦さん、石鍋壽一さん、瑛ちゃんさん、江戸川の小鮒さん、江良ヒデ子さん、大谷悦子さん、K・Nさん、慶蔵さん、K・Tさん、さかな Chanさん、佐々木定治さん、散歩の花子さん、下山田隆さん、高橋雅子さん、田上真喜子さん、田村ひろ子さん、千葉美文さん、となりさん、ひまわりさん、広瀬温さん、むしあおさん、Ryuさん、弥生さくら草さん、ゆきひめさん
自主生物調査団(編集:一澤成典さん)

ご協力ありがとうございました!

「水辺のふるさとかつしか」第327号
(葛飾区 自然環境レポーター通信第279号)
令和5年12月末日 発行
葛飾区環境部環境課自然環境係
〒124-8555 葛飾区立石5-13-1
代表電話 (3695)1111
内線 3522~3
直通電話 (5654)8237
FAX (5698)1538



「水辺のふるさとかつしか」の内容について、
お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。